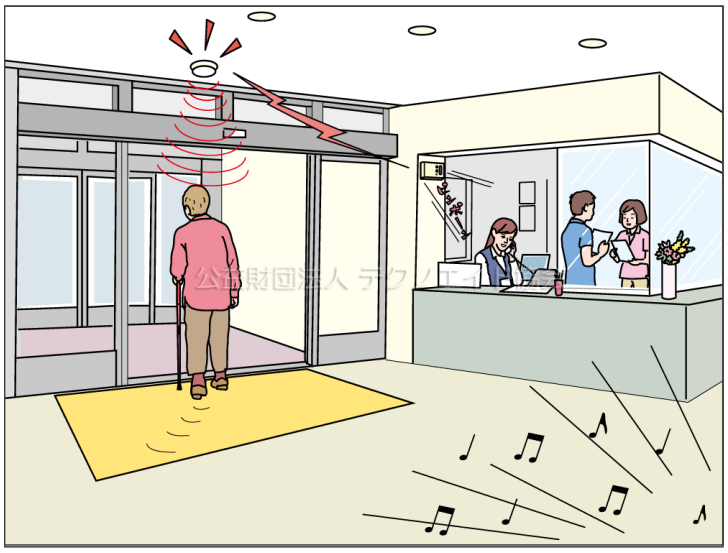
Case：359

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、屋外を徘徊していた

場面の説明

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、認知機能の低下した高齢者が、屋外を徘徊していた



利用シーン	その他
主な利用場所	玄関
介護保険の種目	認知症徘徊感知機器
分類コード(CCTA95)	215190 (徘徊老人監視システム)
介護テクノロジー	見守り・コミュ（施設）
二次元バーコード	

解説

職員が他の作業をしていて、玄関の徘徊感知機器の音に気が付けなかった事例です。徘徊感知機器は電源直結のものもありますが、電池式の場合、いつの間にか電池が弱くなり、音が小さくなったり、ならなくなったりします。定期的な音量チェックが必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：センサーの音量チェックができていなかった
人：騒がしい状況での作業により、機器の音が聞こえなかった
環境：まわりが騒がしかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.

福祉用具ヒヤリハット　研修教材（受講者用）

日付：	所属：	氏名：

Case：359

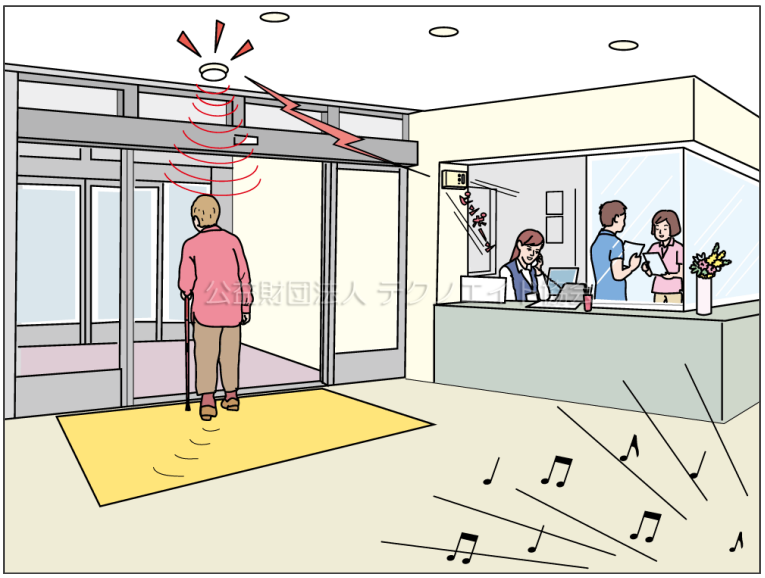
施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、屋外を徘徊していた

事例詳細

回答前に見ないこと

場面の説明

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、認知機能の低下した高齢者が、屋外を徘徊していた



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ

作成：公益財団法人テクノエイド協会

Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.